

資 料 目 録	395
役 員 名 簿	400
編 集 後 記	402

研究報告資料目録

第1回 場所：大阪大学医学部附属病院2階会議室

日時：昭和39年3月21日(土) 10.00~17.30

資料番号	演 題	氏 名	所 属	頁
1-1	X線撮影系の光学的考察	村田和美	大工試	
1-2	レンズを含んだ像伝送系の一評価法	佐柳和男	キヤノン	
1-3	像伝達系としての写真的性質 最大情報量撮影	畑中勇	富士フィルム	138
1-4	第1報 撮影像評価の定量化	内田勝	阪大技校	183
1-5	第2報 硬軟X線混合放射の写真効果	内田勝	"	
1-6	第3報 X線管焦点のフーリエ解析I	山根巖	日立	
1-7	第4報 撮影系の最大情報量I	内田勝	阪大技校	189
1-8	第5報 X線管焦点のフーリエ解析II	遠藤俊夫	阪大病	
1-9	X線写真の評価法	内田勝	阪大技校	28
1-10	X線像の像質について	山下一也	阪大病	
1-11	X線写真の読影法	内田勝	阪大病	28
1-12	γ 線スペクトルの超分解	末沢潤一	阪大病	
1-1	X線写真の評価法	金森仁志	島津	
1-10	X線像の像質について	津田元久	"	233
1-11	X線写真の読影法	竹中栄一	東大	314
1-12	γ 線スペクトルの超分解	井上多門	東芝	348

第2回 場所：東京大学医学部新設図書館302号室

日時：昭和39年7月4日(土) 10.00~16.00

2-1	像解析における問題点	佐柳和男	キヤノン	17
2-2	フィルム粒子アレの評価	井上多門	東芝	
2-3	運動体をX線透視したときの識別度	津田元久	島津	96
2-4	X線写真の情報量の表示法(第1報) 線量減弱曲線, フィルム黒化度曲線 による情報量	金森仁志	"	199
2-5	X線撮影系の画像の解析(I) X線像の強度分布及び黒化度分布につ いて	高橋照彦	機械試	222
		竹中栄一	東大	

— 6	X線撮影系の画像の解析	竹中栄一	東大	39頁
	X線像のResponse Functionについて	高橋照彦	機械試	

—— 第3回 場所：富士写真フィルム株式会社大阪支社7階会議室 ——

日時：昭和39年11月7日(土) 10.00～17.15

— 1	I. C. O. 放射線像 Informal meeting 報告	佐柳和男	キヤノン	370
— 2	試作ファントムについて	吉村克俊	関東通信	
		田沢進	キヤノン	
		伊藤宏	"	
		佐柳和男	"	
		小泉佑一郎	"	
— 3	X線撮影系の画像解析 III	竹中栄一	東大	39
— 4	" " IV	高橋照彦	機械試	142
— 5	" " V			324
— 6	X線用蛍光板およびX線管焦点のレスポンス関数	土井邦雄	大日本塗料研	46 114
	XレイフィルムのO. T. F.	大上信吾	富士フィルム	
3-7-1		中島庸介	"	
7-2				
7-3				
3-8	X線管焦点のレスポンス関数	金森仁志	島津	54

—— 第4回 場所：名古屋大学医学部附属病院放射線科医局 ——

日時：昭和40年3月6日(土) 10.15～17.00

4-1	国際情報交換の件・試作ファントムの件	佐柳和男	キヤノン	
4-2	眼のコントラスト識別能	金森仁志	島津	265
4-3	間接撮影系での情報伝達と変換	佐柳和男	キヤノン	
		土井邦雄	大日本塗料研	
4-3'	運動体のX線像解析	村田和義	大工試	
4-3''	被写体透過後線質による増感紙のレスポンス関数	宇山茂樹	奈良医大	123
		林周二	"	
4-5	実用X線管焦点のレスポンス関数の算出	奥村寛	名大	57

最大情報量撮影 第6~9報

			頁
4-5'(a)第6報	撮影系の最大情報量II	内田 勝	阪大技校
		山下 一也	阪大病
4-5'(b)第7報	X線管焦点のフーリエ解析II	内田 勝	阪大技校 28
		遠藤 俊夫	阪大病
4-5'(c)第8報	現像効果のレスポンス関数	内田 勝	阪大技校 146
		巢組 一男	阪大病
4-5'(d)第9報	被写体のレスポンス関数	内田 勝	阪大技校 86
		宇山 茂樹	奈良医大
		村田 和美	大工試

第5回 場所：東京医科歯科大学本館大会議室

日時：昭和40年6月5日(土) 10.00~17.00

5-1	モンテカルロ法によるラジオグラフィの解析	畑 中 勇	富士フィルム 80
5-1'	中性子ラジオグラフィの解析	井上 多門	東 芝 356
5-2	ボケを伴う場合の眼の識別限界濃度差	野田 峰男	日立 亀戸 263
5-2'	Optical Transfer Function によるX線撮影系の解析について	佐柳 和男	キヤノン
		土井 邦雄	大日本塗料研
5-3	Xレイフィルムの粒状性	高野 正男	富士フィルム 147
5-4	X線写真の最適濃度範囲	金森 仁志	島 津 193 265
5-5	X線像の雑音	竹中 栄一	東 大 303
		木下 幸次郎	NHK基礎研
		佐藤 英久	"

第6回 場所：大阪市立大学医学部会議室

日時：昭和40年9月25日(土) 10.00~17.00

6-1	シミュレーションによる粒状性パワースペクトルの解析	畑 中 勇	富士フィルム 150
6-2	X線撮影系のレスポンス関数 — 被写体及運動 —	土井 邦雄	大日本塗料研 101
6-3	X線撮影系に存在するボケの Nitka法による解析	野田 峰男	日立 亀戸 213
		矢中 重信	"

6-4	X線像の雑音について(II) 一骨X線像の雑音測定について	竹中栄一 木下幸次郎 佐藤英久 菊地緑彦	東 NHK基礎研 " "	大 276頁
6-5	散乱線のレスポンス関数の測定	津田元久	島	津 91
6-6	超軟X線写真の展示とその批評	山崎武	阪大微研放	

第7回 場所：東京女子医科大学病院会議室

日時：昭和40年12月11日(土) 10.00~17.00

7-1	鮮鋭度と視覚で補正したラジオグラフ の情報量	金森仁志	島	津 205
7-2	X線像の雑音(II)一様分布・正規分布 チャートによる骨X線像のS/Nの 比較	竹中栄一 木下幸次郎 佐藤英久 菊地緑彦	東 NHK基礎研 " "	大 276
7-2'	帰朝談一第11回国際放射線学会に 出席して	鳥生敬郎	大日本塗料研	377
7-3	医用X線テレビの解像力	井上多門 的崎健 野辺地篤郎	東芝中研 東芝玉川 聖路加	
7-4	放射線測定系のフーリエ解析一 電離槽線量計のレスポンス関数	内田勝 速水昭宗 山崎武 東巖	阪大技校 " 阪大微研 阪大放	365

第8回 場所：名古屋大学医学部附属病院放射線科医局

日時：昭和41年3月5日(土) 10.00~17.00

8-1	拡大撮影のレスポンス関数	佐久間貞行 綾川良雄 奥村寛	名大放科 " "	319
8-2	X線テレビの解像度試験	佐々木常雄 飛田勝弘 奥村寛	" " "	176
8-3	X線撮影系のレスポンス関数・・・ (IV)増感紙と写真フィルム の組合わせ	土井邦雄	大日本塗料研	127

8-4	雑音のマスクング効果について	木下幸次郎	N H K 基礎研	269頁
		佐藤英久	"	
		菊地緑彦	"	
		竹中栄一	東大	
8-5	X線像の雑音(III)・・・一様分布型 及び正規分布型雑音チャートによる骨 X線のS/Nについて・・・	竹中栄一	"	276
		木下幸次郎	N H K 基礎研	
		佐藤英久	"	
		菊地緑彦	"	
8-6	最大情報量撮影 第13. 14. 15. 16. 17報 断層撮影像のボケのフーリエ解析	内田勝	阪大技校	331
		遠藤俊夫	阪大病	
		山下一也	"	
		山本義憲	"	
		果組一男	"	
		春田修	"	

第9回 場所：大阪大学事務局松下講堂4階第5会議室

日時：昭和41年5月28日(土)10.00~17.00

9-1	X線撮影系に存在するボケのNitka法 による解析(その2)	野田峰男	日立亀戸	213
9-2	X線管焦点の強度分布とM. T. P.	木下幸次郎	N H K 基礎研	60
		菊地緑彦	"	
		竹中栄一	東大放	
9-3	The Third colloquium on Diagnostic	佐々木常雄	名大放	
9-4	Radiologic Instrumentation に出席して	土井邦雄	大日本塗料研	389

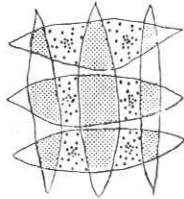
役員名簿

(五十音順)

(顧問)	氏名	勤務先及び所在地	phone	
足立	忠	東京医科歯科大学放射線医学教室 東京都文京区湯島3の1	812-4111	
立入	弘	大阪大学医学部放射線医学教室 大阪市福島区堂島浜通3の1	451-0051	
宮川	正	東京大学医学部放射線医学教室 東京都文京区本郷7の3の1	812-2111	
(会長)	高橋	信次	名古屋大学医学部放射線医学教室 名古屋市昭和区鶴舞町65	741-2111
(常任委員)	内田	勝	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校 大阪府豊中市待兼山町1番1号	池田(6)8381~3
	佐々木	常雄	名古屋大学医学部放射線医学教室 名古屋市昭和区鶴舞町65	741-2111
	竹中	栄一	東京大学医学部放射線医学教室 東京都文京区本郷7の3の1	812-2111
(委員)	伊藤	宏	キヤノンカメラ株式会社 光学部 東京都大田区下丸子3の30の2	738-2111
	内田	勝	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校 大阪府豊中市待兼山町1番1号	池田(6)8381~3
	金森	仁志	京都工芸繊維大学 電気工学教室 京都市左京区松ヶ崎御所海道町	78-4141
	木下	幸次郎	NHK放送科学基礎研究所 物性研究室 東京都世田谷区砧町361	415-5111
	佐々木	常雄	名古屋大学医学部放射線医学教室 名古屋市昭和区鶴舞町65	741-2111
	竹中	栄一	東京大学医学部放射線医学教室 東京都文京区本郷7の3の1	812-2111
	津田	元久	島津製作所 京都市中京区西の京桑原18	81-1111
	土井	邦雄	大日本塗料株式会社 研究部 研究3課 神奈川県茅ヶ崎市幸町14番1号	82-2123
	野田	峰男	日立製作所亀戸工場 東京都江東区亀戸町8の180	681-1141
	高野	正雄	富士写真フィルム株式会社 研究所 神奈川県足柄上郡南足柄町中沼210	小田原23-1111

(賛助会員)

会 社 名	所 在 地
キヤノンカメラ株式会社	東京都大田区下丸子3の30の2
小西六写真工業株式会社	東京都日野市日野6838
島津製作所	京都市中京区西の京桑原町18
大日本塗料株式会社	神奈川県茅ヶ崎市幸町14番1号
株式会社ナック	東京都中央区銀座西1の7
日立製作所亀戸工場	東京都江東区亀戸町8の180
富士写真フィルム株式会社	神奈川県上郡南足柄町中沼210
東京芝浦電気株式会社	川崎市久本30
東京航空計器株式会社	大阪市北区兔野町67(梅田グリーンビル)



編集後記

ここに資料第1巻の編集を終わった。本研究会独自の力でこれを発刊できることは心から嬉しい。歴史的背景、会の成り立ち、将来の展望などは序文およびはしがきに明らかである。

いまに至って思いおこすのは、東大理学部本多侃士教授が主宰しておられたX線研究協議会である。1947年から1960年にわたって研究が続けられ、その間5巻の資料集を発刊している。その当時、X線方面の数少ない研究者が2カ月に1度、東大理学部に集まって議論をたたかわせた。小生も委員の端に加えられ、本多先生に聞いて戴きたいために一生懸命研究し、乏しい財布をはたいて上京したことを覚えていいる。実にいい研究会であった。このように純粹で、静かな学問的雰囲気にもまれた研究会がたまらなくなつた。本研究会もかくありたいと願うものである。

医学と工学の境界領域を開拓するには、大きくわけて、2つの方法がある。1つは医学と工学をたがいに翻訳することであり、翻訳者をそだてることである。翻訳することは厄介で、面倒なことであり、後者に至っては、そのような人を探すポジションがなく、したがってすぐれた人材が得にくいなどが隘路である。他の方法は、すぐれた医学者とすぐれた工学者がおたがいに歩みより一致点を見だして協力することである。このためには医学者、工学者それぞれが独立して権威をもつことが必要であり、したがっておたがいの歩みよりの困難さも大きい。以上何れも困難な道であるが、本会は自然に後者の方法をとっているように思われる。

本資料集の内容にしても、現在の基礎的段階では工学的な記述が大半を占めているが、2巻、3巻と研究が進むにしたがって、臨時的な記述が増加して行くであろうし、またそれを期待するものである。

終わりにあたって、本資料集発刊に際し、かくれた縁の下の力もちをご紹介し労を慰めたい。それは本資料集の印刷全般を献身的に引き受けて戴いた渡辺竜史氏である。氏は齢還暦を過ぎられたばかりであるが、「某一流新聞は日本の国語教育を混乱に陥れている元凶である」と新聞社にねじ込むほどの熱血漢であり、それほど現代国語の蘊蓄の深い人である。また、「著述作品の品位を保つ上に印刷屋は大いに貢献している」とまでいえるほど、この仕事に誇りを持っておられる。誠に嬉しい限りである。本出版にあたって、実に残念なことには、時間がなく、送りがな、活字、図面などのそれぞれの統一に氏の力を充分發揮して戴けなかったことである。

また、阪大技師学校今川房之助、津堅房弘両講師および、木村多賀子事務員には忙しい本務のかたわら、出版に奉仕的な協力を戴いた。ここに厚く感謝する。

(内田 記)

非
売
品

責任者	渡辺竜史	印刷者	R I I 研究会印刷局	発行者	大阪府豊中市待兼山町一番一号 大阪大学医学部附属 診療エックス線技師学校内 放射線イメージ・ インフォメーション研究会 (R I I)	発行日	昭和四十二年四月一日	編集責任者	内田 勝 佐々木常雄 竹中 栄一	放射線像の研究 1 第1巻
-----	------	-----	--------------	-----	--	-----	------------	-------	------------------------	---------------